

WCO 事務総局長就任にあたって



事務総局長任命受諾スピーチ
©World Customs Organization

世界税関機構（WCO）事務総局長
御厨 邦雄

1. はじめに

昨年6月末、当地ブラッセルにて全加盟国・地域の関税局長・長官が一堂に会した世界税関機構（WCO：World Customs Organization）年次総会が開催され、次期事務総局長として選出頂き、本年1月、ここに就任の時を迎えました。

WCOは各国の関税・税関制度の調和・統一及び国際協力の推進等を目的とした国際機関であり、現在、その加盟国・地域は174に上ります。WCOは、国民の健康や安全を確保しつつ、効率的な貿易インフラの提供を通じて、世界貿易・経済の発展に多大な貢献をしています。以下、WCOの活動及び私が目指す方向性、そして国際機関の選挙について簡単にご説明したいと思います。

2. 各国税関当局を取り巻く環境及びWCOを通じた取り組み

（1）各国税関当局を取り巻く環境

米国金融危機に端を発した昨今の経済・金融情勢は、WCOや各国税関当局にとって決して別世界の話ではありません。経済危機が世界経済、とりわけ国際貿易に与える影響は多大なものです。このような状況の下、各国税関当局、なかんずく途上国税関当局が、財政強化に向けて、関税等の歳入確保の一層の努力を求められること、また、国内産業保護のため、貿易障壁を設けるような保護主義的行動をとる傾向にあることは、歴史の経験に学ぶところでもあります。

昨年11月半ばに開催された金融・世界経済に関する首脳会合でも、開放的な世界経済へのコミットメントとして、保護主義の否定、障壁の排除、WTOドーハ貿易交渉の合意に向けた努力等を宣言に掲げています。

他方、このような状況に加えて、国境での取締官庁として、覚せい剤・麻薬の問題、テロと



ブラッセルの WCO 全景

の戦いに手を抜くことはできません。

(2) WCO を通じた取り組み

各国税関当局もこれら時勢に的確に対応し、国際貿易システムにおける信頼性維持の全世界的努力に貢献していかなければなりません。WTO ドーハ貿易交渉の一環として貿易円滑化が取り上げられていますが、その基本となるのは WCO で策定した税関手続簡素化・調和化のための国際条約（改正京都規約）です。また、最近 WCO で焦点になっているのは、税関がこれまで伝統的に輸入を焦点としていたのに対し、税関協力を通じて輸出や通過も含めたサプライチェーン全体を途切れることなくカバーし、貨物の動きを的確に把握しつつ、早期段階でリスク管理を行い、貨物が到着する際の介入を最小限に止めて、安全確保及び円滑化を図ることです。こうした動きは米国 9・11 テロ以降の安全確保の課題への対応に流れを汲むものですが、効率的な税の徴収や、麻薬、知的財産侵害物品や環境に有害な物質の流通を水際で阻止するのにも役立ちます。もちろん優良事業者を認定し、彼らには簡素化された手続を適用するといった仕組みも、官民協力の一環として重要になります。

3. WCO 事務局の取組み

事務総局長就任にあたって、現在私が改革を目指している 3 つの分野を紹介します。

1 点目は、加盟国・地域とのコミュニケーションを促進し、WCO のガバナンスを強化することです。これらにより、各国が WCO の諸活動に効果的に参加し、成果を享受することを目指しています。民間セクターや他の国際機関といった利害関係者とのコミュニケーション強化も重要です。

2 点目は、加盟国・地域が WCO で合意した基準やルールを実施できるよう支援していくことです。WCO は、その支援活動の一環として、各国税関の診断等への支援を実施し、また、ドナーと各国との橋渡し役を担っていきます。そうした支援に際し、加盟国・地域の成功例や教訓を共有し、世界的に適用できる標準化された手法・ツールを、不断の見直し等により発展させることに努めます。

3 点目は、調査研究機能の充実です。グローバル化の進展に伴い、税関は常に新たな課題に直面しており、税関のトップレベルの管理者がその課題の本質を理解し、関係省庁と協力しながら取り組んでいくことが不可欠です。また、調査研究機能の充実は、WCO がツールを発展させる際の前提となる基礎的研究、事例研究を積み重ねていく意味でも重要です。

4. 選挙を振り返って

WCO はこれまで欧米が事務総局長を独占してきましたので、今回も権益を守ろうとする欧州との激しい攻防を余儀なくされ、更に国際社

会での地位確立を求めて候補を擁立する新興国が途上国に勢力を伸ばそうとする攻勢のすさまじさにも圧倒されました。そのため、清く正しくフェアプレーを貫く日本はかなり厳しい立場に立たされることもあり、選挙戦は最後まで予断を許しませんでした。こうした中で事務総局長選挙を支えた基盤には、日本が長年の間に各国と培ってきた幅広いパイプがありました。選挙過程を通じて、歴代関税局幹部を始めとする諸先輩方が築いてきた我が国税関の国際的信用が基礎にあったのは言うまでもありませんが、より一般的に我が国との友好関係、経済関係に触れる各国代表の発言が多かったのは印象的でした。我が国の先進技術、経営、文化に対する高い好感度や、税関分野にとどまらない、JICA 等を通じた日本の幅広くかつ長年にわたる ODA 政策等、諸先輩方が各界で築かれた実績の積み重ねが各国の日本候補に対する信頼感として結実したものと考えます。福田前総理を始めとする政治家の方々、経団連を始めとする財界、外務省の在外公館ネットワークや各省の応援、そして青山前関税局長を選挙対策本部長とする財務省・関税局の取り組みと、政財官界を挙げてご支援頂いたことに、改めて感謝申し上げます。また国際機関の選挙と言っても個人のつながりも大切なことを感じさせられました。15 年前のジュネーブ勤務時の交渉相手や政策大学院大学での教え子が応援に回ってくれたり、日系移民の友人を尊敬していたからと言って、何の見返りもなく近隣国を説得してくれる中南米の局長がいたり、国籍を問わず人の情けを感じました。更に WCO の公用語である英仏語に加えて、スペイン語での呼びかけが予期した以上に歓迎され、通訳を介さない直接のコミュニケーションの重要性を痛感しました。

5. おわりに

WCO 事務総局長就任にあたり、税関の国際機関として質の高いサービスを提供し、21 世紀の税関を担う加盟国・地域の税関指導者・実務者とともに、その英知を結集させ、大いなる船出を支えることができればと考えています。こうした観点で、日本やアジアの官民それぞれの立場から発信頂く情報・メッセージを的確に捉え、WCO の運営に反映していくことにより、国際貿易、我が国貿易の発展に寄与できることを願ってやみません。

◆ 御厨 邦雄（みくりや くにお）略歴

1976 年大蔵省（財務省）入省。外務省在ジュネーブ国際機関日本政府代表部参事官、主計局主計官、関税局監視課長、大臣官房参事官等を経て、2002 年より WCO 事務総局次長。2009 年 1 月より WCO 事務総局長に就任。欧米豪州以外からの事務総局長就任は初めて。

より詳しくは、www.wcoomd.org をご参照下さい。



WCO 総会（昨年 6 月）にて選出された御厨事務総局長とダネ前事務総局長 ©World Customs Organization